北支

愛路

少年傳令

大東亞戰爭下北支は重要なる大陸の兵站基地である

石炭、鐵、鹽、棉花等その豐富な資源は擧げて今日の決戰、次の決戰のために向けられてゐるのである

しかしながら資源が如何に豐富でもこれが戰ひの目的に活用されなければ意味はない

物資を增產しそして確保するためには治安の確立維持が必要であり、それを輸送するには交通の整備と安全が保證されなければならない

北支の鐵道、自動車、水運等一切の交通を管掌する華北交通では多數の警備員と巨額の費用をもつて水陸交通の保全に當つてゐるのであるが、共產軍、重慶軍の巧妙且つ執拗な妨害に對しては民衆の協力なくして輸送の萬全は期し難いのである。守りは四圍にありてある

だから華北交通では鐵道、自動車路、水運路の各周邊にそれぞれ愛路村を設定し、附近住民との合作協力によつて交通路の自衞を計つてゐるのである。路線の兩側十キロの帶狀地域內にある村落は悉くこれを愛路村と指定し村長の下に班長や組長を置いて細胞組織を構成し、愛路青少年團や婦女團を設けて愛路村の中核として活動せしめてゐる。また驛を中心とする數ヶ村が集つて地方愛路區を結成し、その區長には驛長が任命されて日常の統制と指導に當る。村長の補佐役となつて一切の訓育に從事するのは各地華北交通警務段の愛路工作員である

愛路運動の目的は民衆の手によつて交通路を防衞することにあるが、基本的には愛路村をして新東亞建設の基地たらしむべき遠大な理想に根ざしてゐるのである

「一民愛路　萬民享福」は交通路の恩惠を享受する村民達の標語である。民路（民衆と交通路卽ち華北交通）合作の關係に於て標語の精神を昂揚し、具體的には民衆を敵側の手から奪還し完全にこれを把握して日支共榮の陣營に參加せしめるのである

北支蒙疆の現狀はかくの如く交通路を中心にして彼我の民衆爭奪戰を展開してゐると言ひ得るのである

十一歳より十七歳までを少年團とし、十八歳より二十五歳までを青年團とする。彼等は愛路村民衆の中核分子として村を護り鐵路を護るのである。有事の際に役立つあらゆる訓練が鐵路警務員によつて施される

王村愛路少年團

戰實卽習演

鐵路巡察中地雷等の妨害物を發見した場合高粱殼等を焚いて列車に信號する

敵前の演習は實戰と異らないのである

愛路 二

愛路工作の內容は多岐多樣にわたつてゐるが、大別すれば思想の善導と生活の向上に大別し得る。先づ農村厚生の

ための施設としては主要地十四ヶ所に愛路惠民研究所があり五百ヶ所の愛路塾と附設農園がある。これ等は華北交通の他の農事施設と共に愛路村の農產改良の唯一の指導機關であるが、同時に交通愛護思想卽ち親日思想の養成人物の鍛錬場たる機能をもち、愛路工作推進の據點となつてゐるのである。すなはち之等の施設は一般村民に對して農事指導を行ふだけでなく、併せて鐵道知識を與へ剿共思想を鼓吹し、また簡易日語を會得させる。更に愛路惠民研究所の訓練部では、青年隊、少年隊を必要期間收容し、愛路村の指導者たらしむべく、日本人指導者が起居を共にして訓育を施してゐる。これは、愛路工作の眞髓をなすものであるが、その成果については云ふまでもない。このほか農村更生策として優良種子や樹苗、種畜、農具等を無料で配布したり、またその購入の世話をしたり、或は農產品の販賣を斡旋助成する。さらに保健衞生のためには施療施藥のほかに清掃防疫運動を實施して効果を收め慰安娛樂のためには演劇、映畫、紙芝居等を巡回させて笑ひのうちに正しい民路合作の觀念を扶植することに努めてゐる。副業の奬勵、灌漑のための鑿井の奬勵、或は日常萬般の身上相談に應ずる問事處を設置するなど、正に至れりつくせりの手段が採られてゐる

手押車（ハンドカー）操縦實習

愛路　三

かうして、村民は次第に鐵道側に歸服し、自發的に自ら進んで協力しこれを擁護するやうになつてくるのである

これ等村民の中には鐵道側に協力した爲に敵側から危害を加へられる者、或は戰鬪によつて死傷する者も相當多數に上つてゐるのである

愛路村の總數は約八千ケ村、その人口約三千萬で北支蒙疆全人口のほぼ三分の一に當る。交通路を媒體としてこの尨大な民衆を把握、大東亞戰爭の兵站基地として、鐵壁の陣營がかくして著著と築かれつつあるのである

訓練

訓練はすべて日本人指導者によつて日本語でなされる

かくて完全に訓練された團員は鐵道の防護、情報網の確立、情報の蒐集、連絡等に役立たしめるのである。訓練の結果は豫想以上に大きく幾多の愛路美談を生んでゐる。すでに愛路工作の華と散つた可憐なる英靈は幾百を算へてゐる

少年團の棒は梯子になり、擔架になり、橋になる

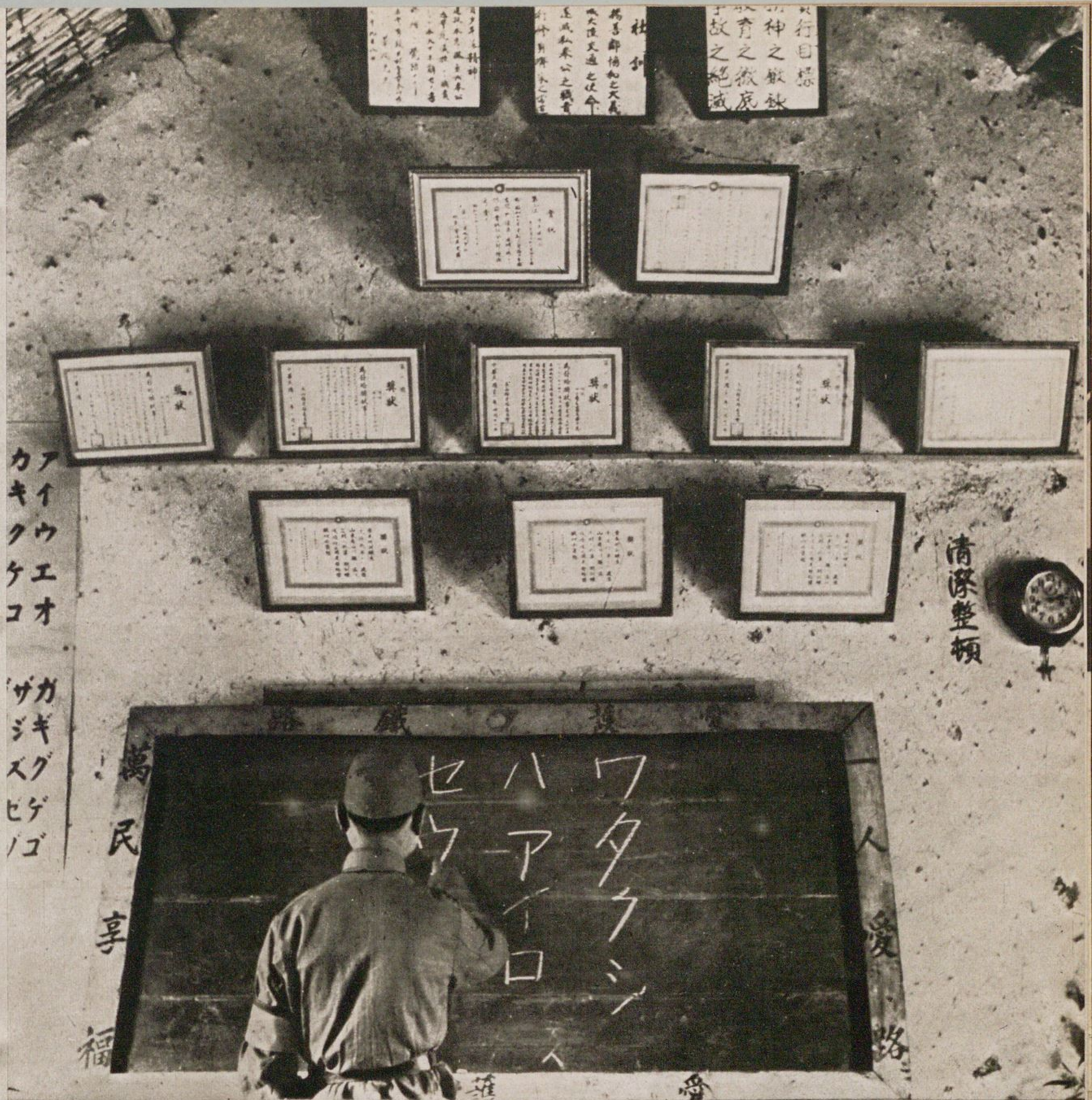
巡察

これは張店警務段から華北交通本社への戰鬪報告の一部である、以て訓育された彼等の旺盛なる責任感と戰鬪意識を知ることが出來よう

王村愛路青年團戰鬪詳報

張店警務段

膠濟線王村愛路區(張店警務段管內)ハ北方ニ八路匪ノ根據地白雲山ヲ控ヘ南方ハ博山萊蕪ニ通スル敵匪ノ行動地帶トナリ共ニ鐵道警備上特ニ留意スヘキ危險地區ニシテ重視サレタル地區タリ(中略)偶〻昭和十七年十二月八日大東亞戰爭一週年紀念ノ式典ヲ擧ゲ路警及愛路青年團相携ヘ明朗王村建設ヲ誓ヒ、情報蒐集班(李德謙)以下南北ニ分レ情報蒐集ニ任シアリタル所畢維元ヲ長トスル蒐集班ハ王村站南方三粁ノ地點淄川縣第六區古城鄉万家莊ニ便衣匪二〇名侵入シ來リ金品强要中ナルヲ偵察班長李德謙等ニ連絡十七時三十分王村警務分所ニ急報直ニ青年團員、分所長以下皇軍分遣隊長ノ指揮下ニ入リ敵匪ヲ捕捉殲滅セスンハ已マサル旺盛ナル意氣ヲ以テ暗夜ヲ利用先行シ敵ノ意表ニ出テ万家莊ニ於ケル敵匪ヲ三方ヨリ攻擊逐次包圍網ヲ壓縮セリ、敵ハ我包圍作戰ニ狼狽東南方ニ退却ヲ開始スルヤ機ヲ逸セス之ヲ追擊猛射ヲ浴セ十七時五十分ヨリ十九時三十分ノ間克ク軍警ニ協力敵三名ヲ斃シ小銃一、手榴彈二、彈帶三、便衣三ヲ鹵獲敵ヲ東南方ニ潰走セシメタリ、本攻擊中李德謙(淄川縣第六區佛生鄉栒家莊出身)ハ一彈ヲ左肩ニ受ケタルモ同僚ノ後退ヲ肯セス出擊亦モヤ第二彈ヲ足部ニ第三彈ヲ頸部ニ受ケ尙モ攻擊セントセシモ遂ニ力盡キ其場ニ昏倒ス(下略)

王村愛路少年團の巡察

社訓、團訓を掲げた嚴肅なる教室

ここでは勦共親日思想を涵養し、農事及鐵道の簡易なる技術を修得せしむると共に特にその人物を鍛錬し以て勦共の闘士たるべく、優秀なる日本人指導者が起居を共にし、滿腔の熱血を注いだ活教育を施すのである

之等〇萬に達する華北優秀青少年が眞に大東亞建設の理念に徹し潑剌果敢に勦共陣營を結成し擴充する所、勦共思想は一波萬波を呼ぶが如く全華北に滲透すべく、聖業の完遂に寄與する所甚大なるものがあるのである

學科

澄んだ瞳、元氣な顔、こんな可憐で純眞な弟が欲しいと思はないか

團欒

大頭和尚の踊と高脚踊に打ち興ずる少年達

紙芝居、笑つてゐる内に愛路精神がわかつてくる

近頃覺えた相撲の遊戯

師弟愛に闘する美談はこれまでにも澤山あつた、
これからも亦無數に生まれてゆくことであらう

社訓

食事前、社訓の齊唱

一、善隣協和の大義を宣揚すべし
一、大陸交通の使命を達成すべし
一、滅私奉公の職責を全ふすべし
一、修身齊家の常道を躬行すべし

これ等青少年團の內から優秀なる者は日本の松山市の日華育英會に送り勉强せしめる。そこでは已に二十名近くも養成してゐる。松山に於ては會長以下滅私熱情をこめた家庭的訓育と相俟つて豫想以上の成績を擧げ、その成人後の活躍は刮目すべきものがあるであらう

愛路茶館

無料蹄鐵所

人事萬般の相談所、夫婦喧嘩の仲裁まで持込まれる

集會場、施療室、浴場、理髮場、新聞閲覽室、圖書室、賣店等を備へた和合悅樂の場處である。現在百數十ヶ所を

數へるのであるが、將來各驛の所在地に設置される豫定である
これは村民に大いに人氣を博し、日を追つて益ゝ盛況を呈してゐる

施療

散髪奉仕

施療奉仕

婦女團一

勤勞奉仕

古來勞働を厭うて屋內深く閉ぢ籠つた農村の若き女性を以て組織し日語、手藝其他の副業、料理法、看護法等を修得せしめ、新華北の母として又妻として恥かしからぬ女性を養成するのである。現在團數四十九、人員一千七百二十人に達してゐる

婦女團 二

彼女達も村から村へ施療に施藥になかなか多忙である

彼女達は傳單戰第一線の戰士で

面白くて有益な紙芝居、口上も説明も近頃は板についてきた

紙芝居に興ずる村の子供達

かうして彼女達は進んで華北交通の施療施藥班の助手をしたり、施米、傳單配布を手傳つたりするほか、時には危險を冒して敵情の通報に協力することもある

河南省張寨村自衛團結成の動機

張寨村自衛團長趙煥堯

自衛團員の射撃訓練

中央系遊撃隊、共産軍の横行の最も激しかつた隴海線羅王驛周邊張寨村の自衛團が設立された劇的な報告は本誌讀物頁に掲載した、參照せられたし
村の資産家趙煥堯は家族二名を敵に拉致されたが後難を怖れてか日本側（驛）に通告せず自力で搜索を續けてゐる内亦々殘りの三人も拉致されてしまひ、趙煥堯は孤獨となり悲嘆に暮れた、遂ひに意を決して日本側に救出方を乞うて來た

自衛團の紅槍隊の閲兵

男達は槍を取つて戰鬪に、女達は焚き出しでいそがしい

ひげのをぢさんが中島警務員

婦人挺身

（夫婦協力して模範愛護村を築く）

敵の巧妙な逆宣傳によつて排日思想の根強くはびこつてゐる部落に夫婦で入り込んで愛路村の建設にやさしい婦人の活躍がどんなに大きな力を添へてゐるかといふことは、現に各地區で著々と實證せられつつあるのである

此處に掲載した寫眞は排日の最も熾烈であつた開封管下興隆愛路村に夫婦で乘り込んで模範愛路村を建設した夫妻工作の一例である

はじめは頑として近附かなかつたかたくなな村民の心を婦人なるが故にこれを切り崩し得て、其の基礎工作を婦人自らがやつてのけたのである

愛路工作とは、至純神の如き精神と、燃ゆるやうな情熱と信念を以て村民に對して體當りをすることなのである工作員の眞情には敵匪すら泣かしめた例は尠くないのである

ともあれ興隆愛路村警務段員中島君夫妻の今日此の頃は繁忙を極めてゐる施療施藥、農事の指導、物資の斡旋、學校教育の援助、其他萬般の大小人事相談一切の相談に應じなければならないのである

また夫妻入村して成功したもう一つの例を本誌讀物頁に紹介してあるから參照ありたい。

團結東亞民
完成國民

交通なくして
建設なし.

大東亞戰爭と華北民衆

松岡英治

大東亞戰爭の勃發前に於て、華北の民衆の對日思想は必ずしも我々の希望的觀測に合致してはゐなかつた、と云ふことは最も親日的な支那人と目される人々の間にすら、日本の實力に對する不安が拂拭されてゐなかつた、と云ふことである。

確かに大東亞戰爭勃發前に於ける日本の對米隱忍外交は、日本の實力が米國のそれに比して劣勢且つ薄弱に因由すると思はせたに違ひない。少くとも日本の執つた必要以上の對米平和解決策の堅持は、一面さうした印象を一般に與へた事は否めない事實である。有體に云へば日本人の中にすら、眞珠灣の一擊が報ぜられる一瞬前まで、我々は米國の非道な壓迫の前に屈服する事を餘儀なくされるものと、絕望的諦觀に長大息を洩らしてゐたものもあつた事は疑ひない。

然しながら、大東亞戰爭は、九人の軍神を生んだ眞珠灣の奇襲から始つて陸海空の壓倒的勝利に依り、今後の大東亞戰爭遂行の上に決定的勝利の基礎を確立した。もはや、華北の民衆と云はず、誰しも日本の勝利の記錄に疑問を抱くものは居ない。だが併しそれでは華北の民衆は、日本が大東亞戰爭に於て最終的勝利までも獲得するものと信ずるであらうか。この事は日華の合作が大東亞戰爭完遂の基本的なものとなるが故に、最も嚴密に檢討しておかなければならない事である。

華北の民衆は、大東亞戰爭遂行の第二年に入つても、日本が從來確保してゐる軍事的成功を基礎として、大東亞共榮圈確立の巨步を進めるであらうと確信し、そして昨今それがこの戰爭の最終の勝利にまで導かれる事を認識せざるを得なくなつたやうである。何故なら華北の民衆の大多數は、日本は最初に軍事的成功を收めたが、强大な軍備と無限に埋藏されてゐる戰爭資源を擁する米英兩國を相手にしては、長期戰に於て著しく困難が伴ふだらうと豫想した。それは今次戰爭前に於ける米國の政治指導者が、日米開戰一度び起らば、三ケ月にして日本を沈默せしめてみせると豪語してゐた空威張りを誤信してゐたのにも依るが、日本は滿洲事變以來十年もの間、消耗戰を續けてをり、加へて米國の不當なる對日干涉に蹶起した當時の日本の姿は、滿洲事變の際、國際聯盟から脫退した時の樣に颯爽としてゐたのではなく、寧ろ悲壯な感じを一般に印象づけた。だから日本人である我々すら大東亞戰爭が過去一年を回顧してみてこのやうに餘裕綽々とした戰ひを戰へるとは思はなかつたし、況や華北の民衆が聖戰の前途を危ぶんだのも無理からぬ事である。

ところが戰爭は我が大本營發表を裏書する中立國側の發表があつたり、南方に於ける占領地の建設の情況が各方面から情報と同時にニュース映畫やら寫眞やらでどし〳〵華北に流入して來て華北の民衆は持たざるの日本が逆に持てる國となつて、長期戰に堪へ得る姿勢をとつた事も知り、やうやく日本の勝利に不動の確信を置くやうになつたのである。

ゲツベルスは、歐州大戰の將來を述べて、聯合國側が如何に最終の勝利を

內容

第五卷・三月號

呼號しても、連續的敗戰の總和の上に勝利は齎らされないと云つてゐるが、この言葉は大東亞戰爭に於ても米英に對し、將又敗戰に喘ぎながらも抗日建國を叫び抗戰必勝を叫んでゐる重慶のそれにも引用されよう。

大東亞戰爭は疑ひもなく日本の完勝に依つて結實する。華北の民衆は、もはやこのことに關しては我々と同樣の認識と感想を抱いてゐるに違ひない。

然しながら、それでも日本の完勝が華北の民衆に取つて、どのやうな影響を及ぼすかといふ事、云ひ換へれば日本の勝利が華北の民衆生活の上にどのやうな利害を齎らすかと云ふ事に就ては明確に認識されてゐないのではなからうか。華北の民衆が大東亞戰爭は日本と米英の戰爭であつて、華北は戰爭の埒外に在つて日本に對して友邦としての道義的支援を爲せば足ると云つた程度の安易な認識に立つてゐるものとすれば、これは日本に取つて一つの悲劇であるよりも華北自身の悲劇である。

我々は、華北の民衆に對して華北の立場は斷じて第三者ではなく、當事者そのものである事を現象として徹底させねばならない。

華北民衆が擔ふ使命と責任は、我々日本人のそれに豪も劣るものではなくこれは大東亞戰爭勃發以來、王揖唐委員長、林文龍情報局長等に依つて屢々說明されてゐるやうであるが、認識の上に於て如何に華北の參戰態勢が徹底化されても、現象の上にこれが反映されてゐるのでなければ、それは認識の缺如と同斷であり、大東亞戰爭完遂に對して華北の責務を十全に果行するものとは云へない譯である。

華北の民衆に對して大東亞戰爭をもつと切實に自身のものとして戰はせるためには、戰爭の歸趨が華北民衆の利害に結びつくと云ふ事と、同甘同苦の徹底を圖る事である。例へば既に日本に於ては、南方進出に依つて小學校の生徒達はゴム毬の配給を受けたが、それがどれだけ民衆の生活感情を潤ほしたかは計り知れない。これは最初からさうした民心收攬の宣傳的意圖があつた譯ではあるまいが、論よりも證據に賑く民心の歸趨を、端的に明示してゐる。だからそれにつけても我々は、華北の民衆の利益を認識の啓蒙と同時に現實の上に齎らされるやうに考慮すべきである事を、痛感せずにはゐられない。戰爭といふ大きな消耗行爲をやつてゐるのだから、多少の生活的苦痛を忍ぶ事は當然だといふ說明だけでは華北の民衆は納得しない。華北の民衆をもつと自主的にもつと積極的にこの戰爭に參加させるためには、戰爭の推移に從つて生まれるところのものを如實に示す事だ。

我々が今大東亞共榮圈の設定といふ規模雄大な構想の下に支那の地域を考へてみる時、その地大物博に於て、民衆の數に於て、支那は擢でて他の地域に倍して重要なところである。だから大東亞共榮圈確立の成否は、支那問題の解決如何に懸つてゐるといつても決して過言ではない。就中華北はその支那の中でも、數字を擧げれば明瞭であるやうに、最も重要な地位を占め、從つて大東亞戰爭に於て華北の擔ふ役割は極めて重且つ大である。

我々日本人が華北に對するこの認識の基礎に立つて職域奉公の實を擧げる事を必要とするのは勿論であるが、我と同じ地域に住し、同じ目的の下に協力すべき華北の民衆が此の大理想の實現に熱意を缺くやうであつては、結局その不幸を負ふものが日本のみではなく、華北の民衆にも、引いては大東亞の同胞の上にも及ぼされる可き影響を考慮して、我々は華北の民衆に對し一日も早く同甘同苦の具體的實踐を經驗さしたい。

華北の民衆が勝利の確信だけでなく勝利の確證を握る事になれば、大東亞戰爭の意義は云はずして理解される。

華北の民衆がその生活感情で大東亞戰爭の何たるかを理解した時、始めて華北建設の基礎は安定したと云へるのである。我々は斯くして華北の民衆を日的に獲得する必要に迫られてゐるが、だが而しそのために必要以上の妥協や媚態は禁物である。我々は華北の民衆と甘を同じくする事に吝かであつてはならないが、さりとて苦を共にする事を要求するに聊かも遠慮や忖度があつてはならない。さうすることは却つて華北の民衆の事大性を助長する事になり、我々の眞意に背馳する。矢張り共苦の實踐があつてこそ同甘の愉樂が味へるのだと云ふ體驗を與へる事が此の際一番必要である。華北の重要性を力說する事が却つて華北の民衆の對日驕態を募らせるやうな結果になつては困る。華北の重要性は日本に取つて大東亞戰爭完遂上、絕對不可缺なものではあるが、それに倍して華北自身の建設のために、その重要性が發揮されなければならないのである。

換言すれば、華北民衆の冀求する安居樂業は、華北の重要性がその重要性の故に如何に日本に利用されるかに比例するのだと云へる。

模範愛護村建設記

瀧　正　介

大會戰で名高い徐州から、津浦線で數驛南下すると、符離集といふ驛がある。宿縣警務段符離集愛護區古符離集模範愛護村へ、田邊治雄夫妻が相携へて入り込んだのは、昭和十七年六月二十日だつた。古符離集村を模範愛護村に仕上げ、逐次その好影響を周邊地區に及ぼして、其の邊一帶に理想的な愛路地區を作り出さうとする重大使命を擔つてゐた。

田邊君は山口縣美浦郡東厚保村厚保川東八〇番地の出身で、奥さんの光惠さんは、岩國の紡績會社に勤務してゐたが、その優秀な紡績技術を惜しまれつゝ退社して、大陸第一線に活躍する治雄君の許へ嫁いだのであつた。

さて、田邊夫妻は、新婚一年の身を自ら志望して、古符離集の村深く入り込み、先づ、泥で造つた粗末な農家を一軒借りて住居を定めた。かうして、日本人とては夫婦切りといふ、心細い生活が始まつた。右を見ても左を見ても、習慣も違へば言葉も違ふ人達ばかりだ。何となく物怖じた、そして冷やかな眼で眺める村民達――水の中に油一滴が混つたやうな、何だかそぐはない氣持だつた。

符離集站の警務分所勤務中はさうでもなかつたのに、さて部落に常駐してみると、部落民の反感的態度がヒタヒタと感ぜられる。露骨な反抗的態度は執らぬにしても、排日思想は蔭に根强く培はれてゐる。我が方への積極的協力により、安居樂業の樂土を建設しようなどとは、毛頭考へてゐないらしく見受けられる。

田邊君は工作の端緒を摑むことに日夜苦慮した。絲口さへ握れば、あとは占めたものである。その絲口を解すことによつて、工作は加速度的に進展するものであることは、田邊君これまでの經驗からしても、又同僚の體驗談に照しても明らかである。だが、その端緒が見つからぬ。「何から手をつけよう」――五里霧中の中に徒らに惱み悶えるばかりだつた。

遊んでゐるよりは――といふので、夫婦は相談の結果、先づ醫療施設に惠まれない村民達に、施療施藥の手を差延べることにした。醫者でないから、難かしいことは出來ないが、普通の怪我や病氣なら、簡單に處置し投藥することが出來る。勿論無料で、鐚一文料金は取らない。かうしてゐるうちに村民との馴染が深まり、彼等の頑な心も次第に解れて來るのではなからうかとの期待から、眞夜中をも厭はず、いつも笑顏で診察し投藥してやるのだが豫期に反して村民は殆ど寄りつかない。田邊君の焦躁は募るばかり。工作の前途に不安すら感ぜられて來た。

「俺の眞心が足りないのか、それとも俺には、かうした大きい仕事をやり遂げるだけの資格が無いのだらうか。」

悶々として眠れず、惱みに明ける夜すらあつた。

何處も同じ子供の世界。村の惡童共は、部落の横を流れる小川の水に浸つては、大陸特有の暑さを凌ぎ、嬉々と戲れてゐた。田邊君は暇を見ては川邊に出て、子供達が無心に遊ぶ樣を獨り淋しく眺めては、幼い頃の故鄕の川の水遊びを想ひ出し、樂しかつた追憶の夢を追つて、悶々の情を僅かに慰めるのであつた。

突如！　河童天國に、大事件が起つた。范といふ排日思想の强い村の小學校長の次男坊で十一歳になる忠正が、水泳中溺れたのである。部落民は右往左往、村人は大騷ぎである。田邊君もこの騷ぎを聞いて、早速現場に駈着けた。校長の愕きと悲しみは、傍の見る目も氣の毒な位ゐ。村の漢方醫が、水中から引揚げられた忠正を、徐ろに診察した結果、「蘇生の見込なし」と絶望の宣告を下した。取圍む人々の顏に沈痛の色が漂ひ、兩親は「何とかならぬものか」と泣き喚いてゐる。

「よし、僕がやつて見る。」

田邊君はつか〳〵と進み出た。忠正の軀に手をやると、心なしかまだ曖味が微かに殘つてゐるやうな氣がする。

「占めた！　これは助かるぞ。」

田邊君は懸命で人工呼吸を始めた。三分―五分―まだ息を吹返さぬ。

「人命救助だ。人一人の命が助かるのだ。そして俺と村民とが結ばれて行く動機にもなるのだ。助けたい。どうあつても蘇生させねばならぬ。」

夢中で人工呼吸は續けられて行く。校長始め一同は、聲を殺し固唾を呑んで、見詰めてゐる。田邊君は懸命だ。無我夢中だ。

十分―十五分―。

力の限り繰返すうち、おゝ！ 息を始めた。氣がついた。土色の顔がホンノリ生色を取戻して來た。范校長初め一同の喜びは言はずもがな、田邊君の嬉しさは又一入である。

奇蹟！ 否々斷じて奇蹟ではない、至誠が天に通じたのだ。自己を犧牲にし、生活の一切を擧げて愛路精神に沒入する誠意――四圍みな他國人の、而も土と垢に汚れた農夫達の眞中で、日本人的生活形態の凡てを投捨てゝ、農民と共に寢ね共に生き、文字通り苦樂を倶にしつゝ、時代に取殘された生活や農事を指導改善し、誤れる舊思想を拂拭して、大東亞の民として暖い慈光の下に更生せしめよう、これこそ自分に與へられた天賦の使命である――との赤誠が、遂に神に通じたのである。

校長の許可を得て、田邊君は忠正を自宅に運んだ。元の體に復するまで、徹底的に治療してやらうといふのである。校長に、勿論異存のあらう筈はない。その夜は夫婦まんじりともせず、まだグツタリとしてゐる忠正の枕頭に附切りで夜を明した。我が子を看護する兩親にも劣らぬ眞剣さである。時の經つにつれて、忠正はメキ〳〵と元氣を取戻した。食事も重湯からお粥、ご飯と順調に進んだ。

田邊夫妻の親身な看護で、三日にして全く恢復した忠正は、親兄弟の感謝の涙と、村人達の感激に迎へられて、自宅に歸つたのである。忠正を見送る田邊君の瞳は晴々と輝き、近來、ついぞ見かけたことのない生氣に溢れてゐた。只單に一人の生命を救つたからではない。弱き者を助け、苦しむ者を救ふ、日本國民の眞精神を身を以て實踐した滿足、正しきこと信ずることを、思ふ存分やり遂げたといふ滿ち足りた感情が、胸一杯に擴がつてゐた。

*

田邊夫妻は范校長一家にとつては正に命の恩人である。衷心感謝の頭を下げたのは勿論だが、傳へ聞く村民の感動も凄じいものだつた。神樣の降臨だ佛樣の再來だと、素朴なだけに感激性の強い百姓達は、今までの冷やかな態度をガラリと變へて、日本人の眞の姿に接した感動は、夫妻に對する崇拜となり、寧ろ進んで接近し、言葉をかけるやうになつた。

范校長の濃厚だつた排日思想は、これを轉機として百八十度の轉換、村第一の親日家となり、田邊君の有力な協力者となつたのである。それからは續續と協力者が增して行つた。村の有力者全部が田邊君絶對支持者となり、愛路工作は日一日と目覺しく進展した。殊に夫人光惠さんを慕ふ有力者の娘たちは、毎日のやうにやつて來ては、何かと指導を受けるやうになつた。

かうなれば、もう、占めたものである。半ば成功したに等しい。田邊君は思ふ存分の活躍を始めた。村民達は一言半句の不服もなく、絶對信頼を以て田邊君について來た。面白いほど工作は進む。

田邊君が、自ら合作社の囑託を買つて出て、無報酬で驅けずり廻り、農産物資の買收斡旋に奔走して、生産者から直接消費者への新販賣方式を確立したのもこの時である。從來中間商人に喰はれてゐた中間搾取が完全に取除かれ、村民の蒙つた恩惠は大きいものがあつた。

田邊君のひたむきな精進は、皇軍現地部隊長の認めるところとなり、部隊長は表彰狀を贈つてその功績を賞揚すると同時に、部下衞生兵を田邊君に提供した。衞生兵は毎日時間を定めて田邊君の家に顔を見せ、專門の腕を振つて村民の施療施藥に當つたので、門前列をなす盛況で、病氣快癒の歡びに村人たちの顔は日毎にほぐれて行つた。

眞に軍鐵一體となつた愛路工作は、かうして着々と實を結びつゝあり、交通遮斷壕構築、鐵道線路巡察、情報提供、鄕村自衞組織强化などと、全村民の心からなる協力が、惜しみなく進められてゐるのである。

野良に、鍬とる村人の顔も明朗である。畔に腰を下し、仕事休みの一服に語り合ふ話題は、今日の生活の愉しさと明日の希望である。虐げられた過去の陰慘な生活の苦しさも、今では寧ろ樂しい思出の語り草ですらある。

敵匪すら、田邊大人の德には强く打たれて、手も足も出ず、田邊君の息のかゝる土地には一指すら觸れることが出來ない。古符離集の村から鐵道の匪害事故が全く消滅したことは、この邊の事情を雄辯に物語つてゐる。

田邊君夫妻は、農事指導、物資の斡旋、小學校教育の援助、病人の見舞施藥を初めとして、夫婦喧嘩の仲裁、結婚の媒介、葬儀の世話、借金の整理等と、私事の末端に至るまで大小を問はず相談を持掛けられて、夜もオチ〳〵眠れぬ程の多忙さだが、生氣を取戻した百姓達の明るい顔と、スク〳〵と育つて行く古符離集模範愛護村の平和な姿を唯一無二の喜びとして、沒我の犧牲的生活の中に獻身的な撓みなき努力を捧げ、國策第一線の尊き使命に、默默と挺身を續けてゐるのである。

鐵路を護る

大野司郎

驛員さんが切符を切り、機關手が汽笛を鳴らしさへすれば、汽車は走るものだと思つてゐる日本内地の人達に、

「北支には、劍をつつて鐵砲を持つた鐵道從事員がゐるのですよ。」

と話したら、けげんな顔をするに違ひない。

第一、責任を自覺し躬を以て交通の防護に任じ力を盡してその安全を確保すべし

第二、仁恕克く民路合作の實を揚げ大いに民族協和を促進すべし

第三、協同を尙び規律を重んじ相扶けて心身を錬磨し相携へて業務に精勵すべし

第四、常に家事を整へて後顧の憂を除き必ず有事に備へて奉公の萬全を期すべし

第五、身を持すること廉直方正擧措進退必ず公益を以て先とすべし

第六、長に事へて恭下を待つに寬凡そ人に接するに溫而して更に加ふるに忍の一字を以てすべし

これは「路警訓」の正訓である。路警とは警務從事員のことである。路警は皇軍將兵と同様に、嚴格な規律と果敢な攻撃精神、旺盛な犧牲的精神が必要である。路警訓は精神錬磨の糧であり、生活の指針であり、職務遂行の守則でもある。

*

チ、リ、リ、リ、リ、………。

○○站警務段詰所の電話がけたゝましく鳴つた。警務分所からだ。

「一時三十分、七七粁附近に於て地雷爆破、列車脱線と同時に匪襲を受けあり、急援乞ふ。」

匪襲！ 卽刻各方面へ連絡をとる。

城内にあつて急報を受けた杉本警務副段長は、直ちに急援列車の準備を手配すると同時に、段員を非常呼集して武裝を固め、隊伍を整へて城門を出た途端、驛舍の方に小銃聲二、三發。

「驛も襲撃されたぞッ！」

その時は既に數百の敵が驛の東方と東北方から、鐵條網を破壞して構内に侵入、ホームに殺到してゐたのだ。

一路急行する杉本副段長の一隊が驛構内から七〇米の地點に來た時、突如二百米の距離から小銃の一齊射撃を受けた。其處にも敵が居る。が、今は應戰すべきでない。驛の救援が急務だ。

匍匐して前進を續け、朧月夜の薄明りに瞳を凝せば、西通用門のあたりに蠢く敵影。既に敵は構内に侵入してゐるのだ。

そのうち、構内から小銃、拳銃の亂射を浴びせて來た。手榴彈は隨所に炸裂する。

構内のトーチカには遠藤警務員の指揮する華人警務手四名が立籠つてゐる筈だ。雲霞の如き敵兵重圍の中に苦戰してゐるに違ひない。何をおいても、先づこれを救援しなくてはならない。

意を決した杉本副段長は、傍の濱野警務員に命令を下した。

「濱野警務員は警務手三名を伴ひ、決死隊となり構内トーチカを救援せよ」

覺悟を眉宇に示し、濱野警務員は脫兎の如く敵中へ突進して行つた。

一方、主力は驛舍西側に迂回し、敵前五〇米に近接した時、敵の猛烈なる攻撃が開始せられ、こゝに機關銃、小銃、拳銃、手榴彈の凄愴な激戰が展開した。敵は多勢を恃み、なか〳〵頑强に抵抗する。我が方も決死である。

煉瓦塀を楯に、依然亂射亂撃のまゝ敵と對峙である。

その時、轟く銃聲を縫つて響く聲。

果敢な應戰が續く！

「站舍北側の敵を攻撃せよ。」

濱野だ。濱野警務員の聲だ。敵中突破に成功したのだ。よしッ。かうなれば挾み討ちだ。一同勇氣百倍。一層熾烈な攻撃を加へれば、構内トーチカからも敵に猛撃を浴びせる。

三十分。四十分――

流石の頑敵も次第に怯んで來た。その機に乘じ、杉本副段長は部下を勵まし、白刃を振翳して敵陣に躍り込んだ。一同おくれじと後に續く。決死の突撃だ。喊聲と共に飛ぶ血しぶき。凄絶な白兵戰！

遂に驛舍に到着、これを確保した。

敵は一角潰れたと見るや浮足立ち、雪崩を打つて潰走を始めた。線路を踏み越え、算を亂して東方へ遁走する。

我が方は驛舍側とトーチカから、思ふ存分の猛射を浴びせ、遂に驛を無事護り遂げたのであつた。

それにしても、杉本副段長初め濱野遠藤警務員等の何と勇敢なことであらう。否、日本人警務員だけではない。華人警務手達の、日本人に劣らぬ果敢な奮戰振りを見落してはならない。命令一下、決然死地に突入し、或ひは壯烈な突撃を敢行する。熾烈なる攻撃精神と崇高なる犧牲的精神を、まざ〳〵と窺ふことが出來るのである。

愛路美談集

大邊豐平

北支蒙疆の鐵道、自動車、內河水運の路線兩側各〻十キロの幅に愛路地帶が設定せられ、この地域內に包含せられる愛護村は總數八千、村民は三千萬の多數に上つてゐる。この愛護村は、華北交通會社の指導下に農村振興、經濟更生に努力を重ね、華北發展の中核體として思想、經濟、文化等各方面に著しい躍進振りを見せてゐる。村民達は又皇軍や鐵道に協力して、敵匪の情報を蒐集通報したり、時には自ら槍や刀を持つて鄉村自衞に奮戰したり、新中國を建設し、樂土華北を打立てるために眞劍に努力してゐる。一方また村民は、交通路線は建設の動脈であり治安確保の據點であるとの觀點から、積極的に鐵道側に協力し、涙ぐましいまでの誠意ある奉仕を捧げてゐる。鐵路の巡察、夜間の立哨、情報報告、事故復舊作業の勞力供出などと、文字通り民路一體となつて「我等の鐵路」防衞に當つてゐるのである。色々な手柄を立てる村民は毎月二千名を超え、そのうち華北交通から表彰を受ける者は一年間約二千名、特に功績顯著で愛路の金鵄勳章ともいふべき功績章を授與せられる者が三百名に上るといふ一事から見ても、彼等の眞劍な協力態度を窺ふことが出來る。だがその反面輝しい手柄話の蔭に、幾多の尊き犧牲のあることを忘れてはならない。驀進する列車に觸れて線路巡察の使命に殪れ、或ひは日本に協力する漢奸として、兵匪の兇手に生命を斷たれたなどとの感激深き哀話の數々も多數殘されてゐる。

以下は興亞聖業の尊き人柱として一命を捧げたといふ、血で綴る愛路美談の一齣である。

勳は芳し殉職記念碑

京漢線沿線地區に分散蟠踞する冀中第二分區司令于權伸系遊擊隊の各匪團は、糧秣、物資、金品の强奪に狂奔する一方、常に多數の便衣匪を放つて鐵道沿線に侵入せしめ、重要道路、鐵道、通信線、橋梁の破壞に重點を置き、治安の攪亂を企圖しつゝあつた。

鐵道監視員の重責を負ふ河北省正定縣永安村の葉淩玉（當時四四歲）は、險惡な狀況の中を、鐵路の防護に獻身的な努力を續けてきた。或る夜、線路巡察の任務に服した彼は、長男の溫斌（當時一六歲）を伴ひ、親子手を携へて、細心の注意を拂ひつゝ線路を辿つて前進した。午前零時四十五分、正定站北方二・七粁の地點に差懸るや、鐵道爆破を企てゝ前記于權伸系第二十二團歐陽林系匪約百名が、盛んに土を掘つて地雷を埋沒中であつたが、兩人の姿を見るや素早く物蔭に潜んだ。細心な親子の注意力は、忽ち三ケ所の歷然たる埋沒形跡を發見して、容易ならざる事態を直感、じつとあたりを見廻すと、線路の傍にうづくまる匪團の影！

「さては？」と、站に急報せんと踵を返す刹那、ダ、ダ、ダ、……と火を吐く敵輕機の一齊射擊。運拙く父親は右大腿部に數彈を受け、ガバとその場に昏倒した。驚き駈け寄る溫斌の頭上に、ビシリと押かぶせる父の聲。重傷の身の何處から出るか凛然たる命令！

「急げッ、俺のことなど構ふな、車站へ……急報……。」

この父にしてこの子——瀕死の父に心は殘るが、任務は重い。雨と降る敵彈下を潜り辛うじて正定站に辿り着き狀況を報告、重傷の父に代り、立派に責務を果したのであつた。

父親淩玉は、車站に運ばれて軍醫の手篤い看護を受けたが、出血多量のためその甲斐もなく早曉遂に瞑目した。だがその身は死しても、崇高なる犧牲的精神は死してゐない。肉身の恩愛を乘越えて、自己を顧ず我が子を叱咤、その責を果した旺盛な責任觀念は、日頃の高適な人格と相俟つて、村民を痛く感奮せしめたのである。

それから滿一年目、同人の偉功を讃へる殉職記念碑は正定站構内に立派に建立され、軍官民多數參列の下に盛大な除幕式が擧行せられた。愛路魂の精華を表徴する記念碑は、愛護村の行手を照らす不滅の光明として永遠の光を放ち、打仰ぐ村民達を今後如何ばかり鼓舞激勵することであらう。

血達磨になつて敵情報告

河北省晋縣北揋盤村愛護村の連絡員張小包（當時四三歳）は、村長のよき片腕となつて日頃から熱心に愛路運動に沒頭し、常に村民の先頭に立つて積極的な活動を續けてゐた。ある日午後四時頃、通信線切斷を企圖する便衣匪十餘名の來襲を探知するや、時を移さず皇軍警備隊へ急報しようと、線路傳ひに一散に駈け出した。途中で遂に潜伏してゐた敵匪に發見せられ、猛烈な一齊射擊を浴びせかけられた。唯一人を目標に集中する敵彈は雨霰の如く、身の危險極りないが、敵情報告の重大任務を持つ彼は、耳もとをかすめる小銃彈の唸りや左右に落下する手榴彈の炸裂などは更に意に介せず、彈雨をくぐつてひた走りに走り、息せき切つて漸く警備隊寸前まで到着した。その時、不幸一彈は彼の右肩を貫通したのである。彼はその場にどつと倒れた。だが、直ぐ彼は再び起き上つた。傷口から噴き出す血汐は全身を眞赤に染めて、さながら血達磨の如く、重傷の身はともすればよろけ倒れんとするのを、旺盛な責任感で支へて漸く警備隊に辿り着き、喘ぐ息の下から敵情を詳さに報告し終ると、安心したのかガツクリ頭を垂れた。彼は再び蘇らなかつた。華北交通當局では、彼の功績を讃へる表彰狀に金一封を添へて墓前に捧げ、厚く感謝の意を表したのであつた。

一死鐵路を護つた少年團員

京漢線正定站附近南合村愛路少年團員邢毛子（當時一六歳）は、豫ねてから模範團員として、軍鐵關係機關からその活躍振りを賞讃せられてゐた。或る夏の日の午後十時頃、折からの物凄い烈風の中を鐵路巡察に出かけたところ、敵匪約百名の一團が、暗夜を利して、鐵道通信線破壞中の現場を發見した。敏捷な少年は、直ちに皇軍警備隊に通報しようと駈け出した途端、敵に氣付かれ小銃の一齊射擊を浴びせられたが、更に怯まず、無我夢中で線路沿ひに走るうち、折から後方より驀進して來た列車の機關車に觸れ、左腕をもぎ取られてその場に昏倒した。氣丈な少年は重傷に屈せず、よろめきつゝも立上り、二、三歩前進しては倒れ、倒れては又起上り、責務を果すために必死の努力を續けたが、多量の出血と重傷の苦痛に遂に再び身を起すことが出來なくなつた。

間もなく闇を貫く銃聲を耳にして、その安否を氣遣ひ搜査に來た同僚が發見、駈けつけた母親や警務段員に看護られて直ちに華北交通石門鐵路醫院に運ばれ、醫師の手篤い看護を受けたが翌午前零時半、遂に愛路の人柱となり果てた。匪團は、直ちに出動した皇軍警備隊に蹴散らされ、通信線は安全に確保された。これは一に邢少年の犧牲

的行爲によるものであるが、絶命の瞬間まで、喘ぐ息の下から「八路軍!」「報告!」と叫び續けた旺盛な責任觀念には、枕頭に詰める肉親その他關係者一同等しく胸を衝かれ、感動の涙にかきくれたのであつた。

銃口の前に愛路を叫ぶ母子

河北省磁縣西佐愛護區南旺村が、鐵路愛護村として結成日まだ淺い頃は、共産思想が根強く殘つてゐた。この村へ愛路精神を注入することはなか〳〵至難な仕事であつた。その時、李存泰（當時四三歳）は選ばれて副村長に就任した。

責任のある重要な地位に就任した李存泰は、經濟的にめぐまれない一家の大黑柱として、僅かばかりの畑と農閑期の苦力勞賃により、細々生計を立てる貧困な家計狀態をも意とせず、常に村民の先頭に立つて活躍した。情報の迅速な蒐集や連絡、或ひは敵彈雨飛の中に敢然身を挺して之を排擊する等、その目覺しい活動振りは、關係軍や鐵道側は勿論、一般村民からも賞讚の的となつてゐた。

初夏の或る日午後十一時頃、同村へ新編第五旅第七二團長王安順の率ひる約百名の匪團が侵入した事實を探知した李存泰は、時を移さず、險惡な情況の中に身の危險をも顧ず、迅速敏活に皇軍警備隊と華北交通警務分所へ急報した。そしてその足で直ちに部落へ引返さんとしたので、一同は「危險だから討伐が終つてから還るやうに——。」と勸めたが、責任感の強い同人は、「村民に萬一のことがあつてはならぬから——。」と、決然歸村したのであつた。

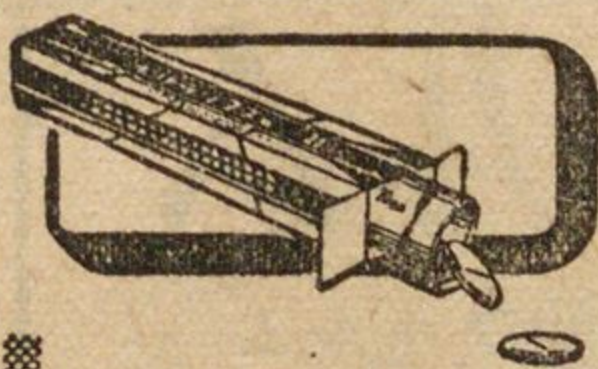
これが惡るかつた。

同人が警備隊へ通報の事實を諜知した匪團の忿濍は遣る方なく、歸村した同人と年老いた何の罪もない母親の李王氏（當時六九歳）を捕へ、深夜の戸外に拉致した。

やがて兇徒の銃口の前に立たせられた李存泰は、あらゆる敵の暴虐によく堪へて、飽くまで信念を枉げず、反共滅共と東亞新秩序建設を絶叫しつゝ、哀れ兇匪の放つ哨煙の中に親子相擁して莞爾興亞の人柱となつたのだつた。

一家の支柱を失つた妻子の悲しみもさることながら、老い衰へた老婆までも兇手にかけた敵匪鬼畜の慘虐行爲は村民の激怒を買ひ、復讐を誓ふ聲は全村を包み、村は次第に明るく更生されて行つたのである。

鐵路巡察の使命に殪る

村民の模範として愛路の使命に活躍してゐた石德線沿線深縣磨頭區前磨頭村の王魁中（當時五十歳）は、警務分所長から線路巡察の命を受けた。四圍の狀況は不安で、多分に危險な狀態であつたが、同人は全く意に介せず勇躍自村を出發巡察の重大任務に就いた。途中異狀を認めず、午後十時頃石門起點九五粁附近に差かゝつた時、附近凹地に潛伏して鐵道爆破の機を狙つてゐた約三十の匪團から突如一齊射擊を受けた。「何を小癪な!」とばかり、同人は他の巡察員を督勵して、雨と降り注ぐ敵彈をものともせず勇戰奮鬪中、不幸身近かに炸裂した手榴彈の破片で後頭部に重傷を負ふに至つた。だが、剛毅で而も責任觀念の強い同人は、負傷にも屈せず相變らず奮戰を續け、敵に多大の損害を與へて遂に見事これを南方に擊退した。血みどろになつて奮鬪してゐた彼は、鐵路を無事に護り遂げたが鐵道警務段員や同僚達の看護の甲斐もなく遂に壯烈な戰死を遂げたのである。華北交通では、愛路精神の精髓を遺憾なく發揮してその使命に殪れた彼の靈前に表彰狀と金一封を懇ろに捧げ、その冥福を祈つたのであつた。

第一書房

新刊

東京麴町區三番町
振替 東京 六四二二三

山口等澍著

日本哲學概論

價三・〇〇 送二〇

純粋日本哲學發展の樣相を示すと共に明治以來の「近代」に流入して來た西洋哲學の超剋を論議す!!

本書は生ける現代の日本的思惟に基き書かれた哲學論である。神代に發して儒教、佛教を攝取し克服し自己發展し更に明治以後に特殊化せる動向を展望

ジエス・ステユーアート 岡本成蹊譯

土に生きるもの

價二・三〇 送一五

これが世界一の文明國をもつて自任するアメリカの農民生活の實體である!!迫力みなぎる大長編小說

物質文明の王者として世界に魔威をふるへるアメリカにも此んな生活があるのだ!!希望もなく歡喜もなく生活を失へるアメリカ農民の姿を此處に見よ!!

ダントルコール 小林太市郎譯註

支那陶瓷見聞録

價三・〇〇 送二〇

支那陶磁唯一の西洋人の手になる文獻!!東洋文化が、如何に彼等を影響し支配したかが理解される!!

文獻に乏しき支那陶瓷史研究の爲の第一の資料たるのみならず技術的にも貴重なる記述に富む。詳細なる註解を施してその文化的價値を發揚する稀著!!

増刷

文協推薦圖書

安岡正篤著

世界の旅

價二・三〇 送二〇

河南省張寨村

自衞團結成の苦心

自衞團の設立、愛路工作、それが如何なる苦心を重ねてなされてゐるか、こゝにその一例として羅王分所の報告文を掲げる。

昭和〇年瀧澤警務分所長羅王站着任當時は中央系遊擊隊及共産軍頻りに橫行し、村長の財産を掠奪さるゝもの、人質として拉致さるゝもの續出し、又站東南の鐵道爆破の頻發等、開封警務段管內中の最危險地區たる情勢にありたり。

之がため村民は後難を怖れ、敵匪の愛護村內への侵入も一つとして報告する事なく、分所長以下は之に屈せず羅王警備隊長と密接なる連絡のもとに不眠不休の宣傳宣撫工作を續けたり。

偶ゝ昭和十七年六月二日、敵匪二十名のため站西南方〇粁、張寨村の資産家たる〇〇趙煥堯の家族二名拉致されたるも、後難を怖れてか站に報告せず自ら其の行方を搜索救出に工作を續け居りたるところ、六月十二日夜再び同村に約三十名の敵匪侵入又もや趙煥堯の家族妻趙煥氏外九名を拉致せんとせり、之がため趙煥堯は遂に最後の手段として警務分所長瀧澤警務員の下に急報、救出を乞ひたり。

瀧澤分所長は岡澤警務員と共に村民の保護に躬を以て實踐すべく日軍警備隊長と協力、直に出動交戰四〇分にして三名を斃し敵を潰走せしめたるもなほ三名を拉致されたり。

其の後數日にして敵匪は曩に拉致せる二名を釋放せるも後に拉致せる家族は遂に釋放せず、瀧澤分所長等は號泣する趙煥堯を激勵保護し、且つ家族を救出すべく瀧澤警務員等は每日交代にて彼の宅に寢留りする一方密偵を派し敵匪の系統及被拉致者の行方搜索を續けたり。

其の後數次に亙り戰鬪、相當の戰果を擧げたるも遂に被拉致者を發見し得ず。更に旬日を出でずして瀧澤分所長及岡澤警務員は敵匪の來襲及村民拉致狀況より、全部落內に通匪者あるものと判斷し、內偵せるところ案に違はず來襲匪は中央系第一戰區遊擊第三大隊の袁長法中隊にして張寨村民の子二名該隊員なるを探知し、時を移さず該張寨村在住の敵父親及家族を逮捕し、更に敵匪袁長法の出身地たる站西南方三・五粁唐寨村を急襲せし結果、敵匪七名及家族六名を逮捕せり。

爰に於て瀧澤分所長は自ら敵匪袁隊長に當てたる文書を捕虜の父に持たしめ被拉致者と此の敵匪家族との交換を申出たり。數日にして敵匪も漸く納得站西南〇粁後屯村に於て相互の家族の交換を了し、被拉致趙煥堯の家族三名の奪還に成功せり。

これがため張寨村村民は初めて瀧澤分所長及日軍〇〇隊長に絕對の信賴を持ち、趙煥堯を筆頭に村民擧つて自衞團の必要性を痛感、その設立方を瀧澤分所長に懇願せり。

瀧澤分所長は〇〇日軍隊長並に縣長と計り、土着の村民中特に愛鄕心の旺盛なるもの卽ち地緣關係のある者中、土地〇畝以上の所有者にして〇〇歲以上〇〇歲迄の男子計〇〇名を以て軍及警務段長の了解の下に昭和〇〇年〇月〇〇日、岡澤分所員を同村に入村せしめ自衞團の敎育訓練を實施せり。

其の間、敵匪は我が自衞團設立を妨害すべく自衞團に加入する者は勿論、家族迄も殺害すると各所に宣傳文を撒布、威嚇せるも村民の自衞心は遂に之等の敵匪の脅迫宣傳を克服し、昭和十七年七月十三日、〇〇縣長同顧問新民會參事淸水警務段長臨席の下に趙煥堯自ら團長となり、茲に初めて縣公認張寨自衞團の設立を見るに至れり。

華北に於ける 養鷄狀況

松丸　潔

華北交通鐵道沿線愛護村民の九〇%は農民であるが、これ等農家の經營狀態は實に舊態依然として何等進步の跡を見ず、疲弊の一途を辿りつゝあるものゝ如くであるが、これは從來爲政者に於て此の方面に對する指導奬勵の顧みられなかつた事にも基因すると思はれるが、事變後に於ける畜產資源の減少は、多角經營を必須とする農業經營に影響するところ多く、爲に農家は自給肥料の不足と常時に於ける現金收入に困つて居る狀態である。

然るに之が對策たる家畜の增殖には多額の經費と長日月を要し、剩へ北支に於ては改良種畜を急に求むる事は至難の狀態であるが、此等の內養雞は資金僅少、然も短日月に成果を收め且つ每日の產卵により常時現金收入の途を講じ得る等の點に於て、古來より零細なる農家に於ても飼育し來つたものである。

併し在來種はあらゆる點に於て改良種に劣つてゐるため何とかして羽數の增加を圖ると共に在來種を改良種に置き換へるべく、華北交通北京鐵路局に於ては昭和十五年春季より華北產業科學研究所より種雛の分讓を受け、配布並に指導奬勵に着手したのである。

種類は白色レグホン、橫斑プリマスロツク、ロードアイランドレッドの三種でこれ等は主として初生雛（孵卵器より出て直ぐのもの）の儘を配布したが、一部は一ケ月位育てゝ中雛として配布した。

配布先は種々研究した擧句、長辛店永定門、新通州の三愛護區を選定、それぞれ配布育成に着手したのであるが結局現在最も優秀なる地區は新通州である。

*

新通州に於ては、警務段（現在警務所）を中心とする孔果園、重興寺、西馬庄、五里店の四ケ村で始め、これ等の村民は改良種は弱いとか、飼ひにくいとか種々の逆說が流布され、容易に背んぜなかつたが、兎に角無料で呉れるなら飼つてみようと云ふことになつて、これを一二年飼育して見て初めて其の有利な點を漸次認識し「改良種は多でも休まず產卵する、在來種と同じ飼育方法で良く育つ」等と云ひ、改良の配布を要望する聲漸く大となつたのであるが、北支に於ては未だ纏つた數量の雛を一定の期間に得る事は困難な狀態にあり、極力關係個所と密接な連絡を保ち可及的多數の配布をなし來つたのである。

特に昭和十五年六月には該警務段に內地に於て二十數年の經驗を有する技術者も採用され、段長以下愛路係員の熱心な努力に依り着々其の成果を擧ぐるに至つた。

玆に於て昭和十七年一月、養雞組合の設立を見、同組合の事業として孵卵並に育雛を開始する事となり、鐵路局より助成金の交付を受け尙局用土地建物を正式借受け破損せる建物は村民の勞力奉仕に依り孵卵室一、育雛室其の他附屬舍四、及び事務室、宿舍を設くる等、小さいながらも一應形が整つたのである。

孵卵器は中央鐵路農場の好意により三千五百卵入電氣孵卵器を据付け、孵卵用電力引込に就ては資材不足、年度末多忙の折柄にも拘らず北京電氣段に於て工事を施行し漸く一應の準備完了四月二十日第一回の入卵をなし、玆に初めて華北全沿線唯一の養雞組合に於ける孵卵事業の第一步を印し、關係者並に愛護村民の過去三ケ年に亙る勞苦は漸く實を結ぶに至つた。

規模は小さく設備は不完全ながらもこれでどうやら一と通りの形態を整へ漸く軌道に乘り出したのであるが、事こゝに至るまでの關係者の苦心も過去三ケ年を顧りみる時、感慨無量のものがある。

*

始め配布の際、第一回は三月上旬だつたと記憶するが朝夕は未だ寒く、初生雛のまゝでは危險なので一ケ月位纏めて育雛した上配布する事とし、村內の廟或は村公署の一部を利用し、共同育雛を開始したのである。

當時、警務段の人達は紅果園村の村長宅を借受け起居してゐたもので、該地區も其の頃は治安が餘り良くなく、每晚の樣に銃聲を聞き、皆殆んど寢ないで交替で見張りをし、村長宅には村の役員連中が集つて鐵砲や槍の手入れをしたり時々は威嚇のため爆竹を鳴らすといつた狀態で內地から來たばかりの我々は少なからず膽をつぶしたものであるが、それも段々慣れて來ると銃

聲を聞かない晩は却て物足りなくさへ感ずるやうになつた。

夜中に二度三度起きて、雛の狀態を見に近くの廟まで暗い道を手さぐりに行く、時折出し拔けにタン〳〵と銃聲が遠く近く聞える時は眠さも一度にふつ飛んで却て何糞敗けるものか、雞を通じて何とかして村民の心をがつちり摑み、工作上何等かの效果を擧ぐる迄は死んでも死にきれないと思ふのであつた。併し又、夕方など近所の子供や婦女隊の連中が警務員の所へ良く遊びに來る。女子供、特に娘連中などは日本人を見ると逃げ隱れするものだが、こんなところを見て警務員達の工作に對する熱意と村民の信頼の現はれだと深く感じた次第である。

殊に佐藤警務員など、はじめは全々言葉も通ぜず隨分不自由したらしいが兎に角手眞似身眞似で何とか用を辨じ夏迄には全部の育雛を終へ配布をしたのがそも〳〵の新通州に於ける因をなしたのである。同君は或る時は夜間襲擊を受け、一緒に居た警務手の一名は負傷した等の事もあり、同君は渡支早早から鐵砲玉の洗禮を受け却つて肚が据つたと語つてゐた。

最初華北交通本社の松本、伊東副參事、田尻氏等の計劃された事が僅々三年の間に實を結ぶに至つた事は會社主腦部の理解に基づくのであるが、華北產業科學研究所に於ける後援を思ふ時感謝に堪へない次第である。

昨春組合で孵化配布した雛が見事に發育し、ぼつ〳〵產卵を開始したので一月十三、四日の兩日北支に於ける第一回の組合主催の品評會を開催した。

日頃、村へ這入つても放飼にしてゐるため餘り目にもつかないのであるが斯うして一ケ所に集めてみると實に偉觀である。出品點數、雞三一點、卵三八點で點數から見ると內地の縣主催の品評會にも劣らぬもので今後每年此の種の催をなし村民の理解を高め質の向上を計る可きだと思ふ。

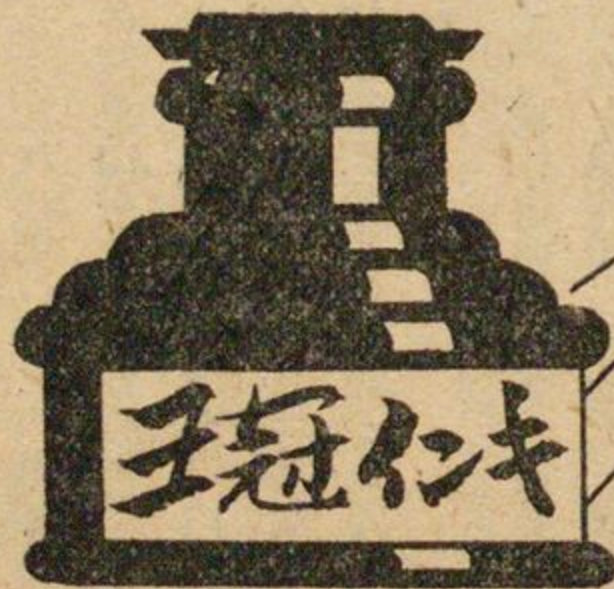
*

北支に於ける改良雞も新通州の例に徵して試驗濟みと言へるのではなからうか。飼料飼育法其の他總ての點に於て在來種と大して異るところなく、而も產卵に於て在來種の年五六十個に比し百四五十個といふ成績を擧げて居る事は昨年八月、警務局に依る組合員の實態調查を見ても判然と現はれてゐる事である。

或る警務員の如きは每日田舍の婆さんの持つ樣な汚い籠に藥を入れて病雛の治療に廻つてゐる。眼の赤い婆さんが居るとポケツトから目藥を出して點眼したり、子供がぞろ〳〵ついて廻るし、姑娘から肩をつゝかれたりして、御面相はこはいみたいだが、すつかり村の人氣者である。

組合の一室は事務室並に施療室となつてゐるが、此處へ來る病人は佐藤夫人の一手受持で、特に女の病人等には人氣を集めてゐる。

最後に組合の外貌を見るに、組合員二〇〇名、組合員の飼養羽數一〇〇〇羽、本年の孵化豫定五〇〇〇羽で、組合員に配布した殘餘のものは各模範愛護村へ配布の豫定である。

（筆者・北京交通社員）

山東・山西に於ける佛教史蹟（承前）

道端良秀

山東省の佛蹟

山東省內の佛蹟として、石窟佛、摩崖佛、摩崖經典、佛塔等一々數へ擧げると限りがないが、その內で山東佛教の開祖とも云ふべき東晉時代の僧朗の遺跡は、神通寺、靈巖寺共に名高い。

神通寺は、單に遺址だけで、六朝の四門塔や、古碑、古墓塔が現存してゐる。この神通寺は濟南の東南八十支里、柳埠村に在つて、僧朗所住の寺である。

靈巖寺は、長淸縣東九十支里と云はれ、津浦線萬德驛で下車して行くのであるが、これは僧朗說法の地とされ、神通寺と同じく朗公塔も現存してゐる。山東に於ける靈巖寺は、山東第一の巨刹であり、更に天下四絕の一とさへ云はれる有名な寺である。

而もこの寺は、かゝる僧朗說法の地として、或は天下四絕の巨刹として名を馳せてゐるばかりでなく、吾々に取つて次のことを銘記すべきである。

卽ちこの寺庭に現存する多くの古石佛、古墓塔、古石碑の中に元の至正元年十一月に立てられた「靈巖寺第三十九代息庵讓公禪師道行之碑」がある。これが卽ち「日本國山陰道但州正法禪寺住持沙門邵元撰幷書」で、日本僧邵元が撰し且つ書いたところの碑文なのである。嵩山の少林寺にも同じく邵元撰幷書の息庵禪師碑が立てられてゐるが、支那に於て、日本僧撰の碑文は恐らくこれを以て唯一とする。

勿論、近年になつて楊州に、常盤大定博士撰の鑑眞和尙碑が建てられたし沂縣城外に日本人有志によつて、五臺山で寂した靈仙三藏の碑が立てられたが何れも近年の事である。

邵元が元の時代に、燕京に來りて學を攝め、この靈巖寺に在つて息庵の門下として研鑽して居たもので、師の寂後、彼がその碑文を撰し、これを書いたといふことは、多くの門弟のある內から選ばれたものとして、彼の學德が知られると共に、今日この一つの石碑が、如何に日支文化の上に、日華提携の上に、重要なる地位を占めて居るかと云ふことは、全く想像以上のものがある。次に

泰山である。餘りにも有名な泰山でありながら、充分これを認識してゐる人は少いやうである。泰山は支那五岳中の第一とさへ云はれ、儒教、佛教、道教三教共に關係深き、史蹟として有名な山である。

「孔子登臨之處」とした門が麓に建てられ、孔子の天下を小とすと云はれた頂上にも亦その碑が建てられて居る。秦の始皇帝の興字碑と稱するものも頂上に立てられてゐる。又、玉皇廟や東岳廟、碧霞元君庙が、同じく頂上附近に立てられ、特に元君廟の如きは泰山の中心の如き觀を呈してゐる。

北支のみならず、全支に亙つて信仰の中心をなす娘々廟の總本山とも云ふのが、この元君庙である。また、各地の東岳廟、天齊庙と云ふが如きは、皆この東岳大帝泰山神を祀つたものである。

山麓泰安城內にある、堂々たる城壁を持つ立派な岱廟は、頂上の東岳廟に對する下寺とも言ふべきもので、この壁畫は宋代のものとして、現存する唯一のものとされて居る。庭內に多くの古碑があるが、現在もその一隅に八角經幢や、石碑類が聚積せられてあつたが、よく見れば金剛經の經幢であり、他は尊勝陀羅尼經幢及び五代頃の石佛である。これは明らかに汽車線路の向ふ側の高里山祠を壞した時に、そこから運んだものであり、また城內の冥福寺の經幢である。五代のもので何れも天福二年及び六年の年號がある筈のものである。

さて、泰山と云ふとすぐ吾々は金剛經の石經を頭に浮べる程それ程泰山の**石經**は有名である。拓本屋が盛に宣傳して、高價で賣り付けるからでもある。この拓本は一寸雅味のある六朝の風格を備へた大字であるために、日本にも相當行き渡つてゐるやうである。この石經、卽ち摩崖經典は、泰山登山路の中途で、路より少し入つた處にある、一大岩石の表面に書かれた九百有餘の文字である。岩石と云つても表面を水が流れて居るといふ餘り急ではない平たい岩底である。

盛んに拓本を取つて居るが、拓本のために或は水のために非常に磨滅して

居るが、中には新らしく彫り込んだのや、磨滅したのを深く彫つたのや、後人の手が大分加はつてゐる。

一體、支那の拓本を買ふ場合、それが有名であればある程、多くの僞作がある。殆んど原拓と云ふものはないと云つてもよい位である。大きな拓本屋の裏庭には、各地の有名な碑石や造像石がズラリと並んでゐて、そこで一齊に大量生產されるのである。

わざ〱その原地に行つて、原石から拓本を取るといふやうな時日と費用のかゝることはしない。甚だ簡單である。これが大抵大きな拓本屋にはそれぞれ作つてあるのであるから、一種類の拓本でも、買ふ店々によつて多少異つてゐるのは、これまた止むを得ないことで、憤慨してみても仕方がない。

次に泰山の金剛經の磨崖經典に關聯して、同じく山東省に於ける磨崖經典を見るならば、泰安縣の

徂徠山映佛巖

の般若經の石刻があり、鄒縣の五山の磨崖經典がある。特に鄒縣のそれは、今回即ち昭和十六年十月と、昭和十七年二月との二回に亙つて、備さに調査し初めて詳細にその價値を報告するところの貴重なる文化資料なのである。

鄒縣の五山

とは、鐵山、岡山、尖山、葛山、嶧山で磨崖經典で名高い。先づ

鐵山の石經

は、縣城より北方二キロ位に位する。高さ六、七十米の小山で、その南面の大岩石の表面、縱三十米、橫十五米くらゐに、一字の大きさ五十糎平方位の金剛般若經が一杯に書かれてゐる。五山の內で規模最も大きく、且つ文字も立派で、千四百有餘年の永き年月、風雨に曝されながらも、儼として六朝の風格を示し、雄麗なるその筆法は、見る人をして感嘆これ久しうせしめる。實に鐵山の磨崖經典こそ、支那第一のものと云つても敢て過言ではないであらう。

岡山

は、この鐵山のすぐ北方に在る山で、鐵山よりはずつと高い大きな岩石の山である。石經はこの山の頂上、東面に磊々として轉つて居る、十數箇の大石や、岩壁に彫られてあるものである。然かもこの磨崖は他の磨崖のそれと多少異つてゐて一岩石に一字二字、或は三字五字、或は十字二十字と、まち〱に而もそれが東を向いたり、西を向いたり、南面であつたり、北面であつたり、上部であつたり、下部であつたり、全く種々雜多で亂雜を極めて居ると云つた形である。恐らく永年の間に移動したり、轉落したりした結果ではないかと思はれる。

且つこの岡山の書風には二系統あつて、上方に位置する「他方佛」云々の正確に嚴たる書風に對して、それより五、六十米東下方にある一群、即ち「觀無量壽經」を書いた一岩石と、それに隣する一岩壁の石經とである。これには銘があつて、大象二年云々と云ひ鐵山のそれと同一系統の書風である。尙こゝで特記せねばならぬことは、磨崖石經は多く般若經典に限られてゐるやうであるのに、こゝに珍らしく、淨土教典たる「觀無量壽經」の石經があることである。

北周の大象二年のものであるが、これは實に淨土教信仰の貴重なる資料である。支那の通志には、この石の形から鷄爪岩と名付けてゐるが、爾後この石を「觀經石」と名付け、今後もさう呼んでゆくこととする。次に

尖山

の石經であるが、これは實は尖山ではなくて、尖山から遠く距れた一丘陵に在るものである。

第一、尖山と云ふ山も、今日の地圖には出てゐないもので、岡山の東方に

尖つた形の山、朱山がそれである。尖つた山の形からさう名付けたものらしく、その石經と云つても、更にこれから一キロ程も東方、普通に大佛嶺と云はれて居る自然の一丘陵の大岩石に彫られてゐるものである。

この岩石の大きさは、長さ三十米から幅八米、高さ二米位のもので、その上表面一杯に般若經が書かれてゐる。

「大空王佛」の四文字の如きは、一米半四方の大文字で、實に堂々たるものがある。大部分摩滅もしてゐるが、「大齊武平六年」の年號も見えるし、韋子深や唐邑の當時の書家の名も見える。

また鐵山にもこゝにも僧安道壹の名が見えるが、これは恐らくこの石刻經典の發願者ではなからうか。次の

葛山

は、縣城より東方六十支里と言はれ、岡山と同じく大象二年のものである。これら四山は宛も彼の北周廢佛の前後に出來たもので、これは恐らく僧安道壹の發願によつて廢佛に備へて佛法を永遠に傳へんとする護法精神の發露になるものと思はれる。次に

嶧山

は、縣城の南方に聳ゆる高い山で、汽車で兩家店で下車した方がよい。これは嘗て孔子がこゝに登つたと云はれる處で、即ち「東山に登りて魯を小とし、泰山に登りて天下を小とす」と云つた東山と云ふのがこの嶧山だとも云はれてゐる。

又、始皇帝登山の遺蹟もある。こゝの摩崖經典は道教寺院より大分下つた、一斷崖に書かれてゐる文殊般若經の一部である。規模としても、五山の内一番小さなものであらうが、同じく北齊北周頃のものである。

外に同じく摩崖佛教經典と云へば、寧陽縣の

水牛山

にも六朝の摩崖がある。これもまた僅か四、五十字のもので、大したものではないが、この水牛山の上に同じく六朝の文殊般若の碑がある。更にまた滋縣即ち兗州の西に

滋山

といふ一丘陵があつて、こゝにも六朝と思はれる小規模の摩崖がある。併しこれは全く摩滅して判讀し難い。次に

石窟佛

摩崖佛

を見ることとしよう。

即ち山の中腹や麓の岩壁を彫り拔いて石窟を作り、或はそのまゝに石佛を刻み込んである。

造像美術であり、當時の佛教を知る貴重資料たるものである。濟南の附近に最も多く、且つ時代としては山東では隋、唐及びそれ以後のものが多いやうである。

即ち名だけを掲げると、濟南附近、即ち歴城縣では、濟南市民がピクニツクには、必ず一度はこゝに行くといふ**千佛山**(隋)を初め、**黃石崖**(魏)、**開元寺**(隋)、**佛峪**(隋)、**龍洞**(隋)、**玉函山**(隋)、**神通寺**(唐)などにそれぞれ石佛が彫られてゐるし更に長淸縣の**靈巖寺**(隋、唐)、**五峰山蓮華洞**(隋)、益都縣靑州の**駝山**(隋)、**雲門山**(隋)がある。更に規模は小さいが寧陽縣の**伏山**にも明代の石像があるし、更に今回新たに世に紹介さるゝ東平縣の**白佛山**石窟佛がある。

この石佛は、東平縣城より二十五支里位の相當高い大きな危山、或は白佛山と稱する山の南面中腹にあるもので大きさ凡そ五米程の大佛を中心として左右に小窟が三窟ある。何れも大した破損もなく、完全に殘されて居るのは全く珍らしい。實はこんな大佛があるとは少しも豫想せず、只、隋唐の摩崖や石碑のあることを、文獻を賴りとしてこれを調査に來て、偶然にもこんな大石佛を見出した譯である。

而も山の中腹に登り、三教堂などの小廟を尋ね、隋の彌勒造像の摩崖などを見て居ながら、その横にある大石佛には何ら氣付かずに居たと云ふ狀態である。それは窟の前面全體を、すつかり塼で閉いであるために一見何ら石佛や石窟のあるのを知らない。注意してみて、初めて何かあると思つて下をくぐり、崖を攀ぢ登つて、初めてこの立派な隋唐の大石佛を見るを得たのである。明代にも相當修覆したらしい、明の重修碑が殘つてゐる。

次に中空高く聳え、支那の風景に一種の情趣を添へてゐるものに

佛塔

即ち舍利塔がある。現地の邦人は何でもかでも塔を見れば直ぐ喇嘛塔と云つてゐるが、喇嘛塔と云ふのは喇嘛關係のもののみで、その形は全く異つて居る。佛塔は六角か八角の七層乃至十三層の磚塔か木塔、又は鐵塔、石塔などであるが、喇嘛塔と云ふのは、北京の北海公園にあるあの大きな大白塔、それに、白塔寺の白塔などが、代表的な喇嘛塔である。圓い塔身を持つた何ら階數のない上が九輪の變形をなしたものである。このやうな塔は山東には餘りないやうであるが、墓塔には盛んにこのやうな形が使用されてゐる。

さて山東の佛塔を見ると、唐、宋、金、明代のものがある。唐のものとして、**鄒縣**の城內の塔、**鉅野**及び**鄆城**の

何れも城内にある塔である。この二つとも上部が黄河の水害のためか壞されて、鉅野は清朝に一寸した重覆を加へてゐるが、鄆城のはそのまゝである。

また**金鄕**の塔も唐代と云はれる。今にも倒れさうで全然登ることを禁じてゐる。**兗州**の隆興寺塔は、隋の仁壽塔であるが、現在のものは宋のもので、七階に宋碑がある。この兗州の塔は、形の變つた珍らしい塔で、八階迄は登り得るが、それからは急に小さく、同じ八角ではあるが、丁度相輪のやうな役目をなしてゐる。

この他に塔は**汶上、滕縣、長清、商唐、東昌、莘縣、壽張、臨清、濟寧**などにあるものを見た。特に莘縣の塔は金代のもので、その相輪は丁度日本の塔のやうであり、北京市の西城にある雙塔の相輪と同じものであつた。支那には割合に珍らしいものである。また濟寧には宋代の鐵塔と、明代の十三重の石塔とが立派に殘つてゐる。泰安にある明の鐵塔は、僅かに二層だけで上は壞れてない。

また金代文化を代表すべき鐘も山東省の各縣に殘されてゐる。何れも大鐘で、二米以上であり、色々の形があるやうではあるが、その龍首の生けるが如く、ガツキとふんまへてゐる足や、爛々たる眼光、その頭など全くすばらしいものがある。これは全く唐や宋、はては明や清の鐘には見出せない程の立派な龍首である。

兗州、莘縣、陽穀、禹城、汶上、鄒縣其他にあるもの、皆さうである。

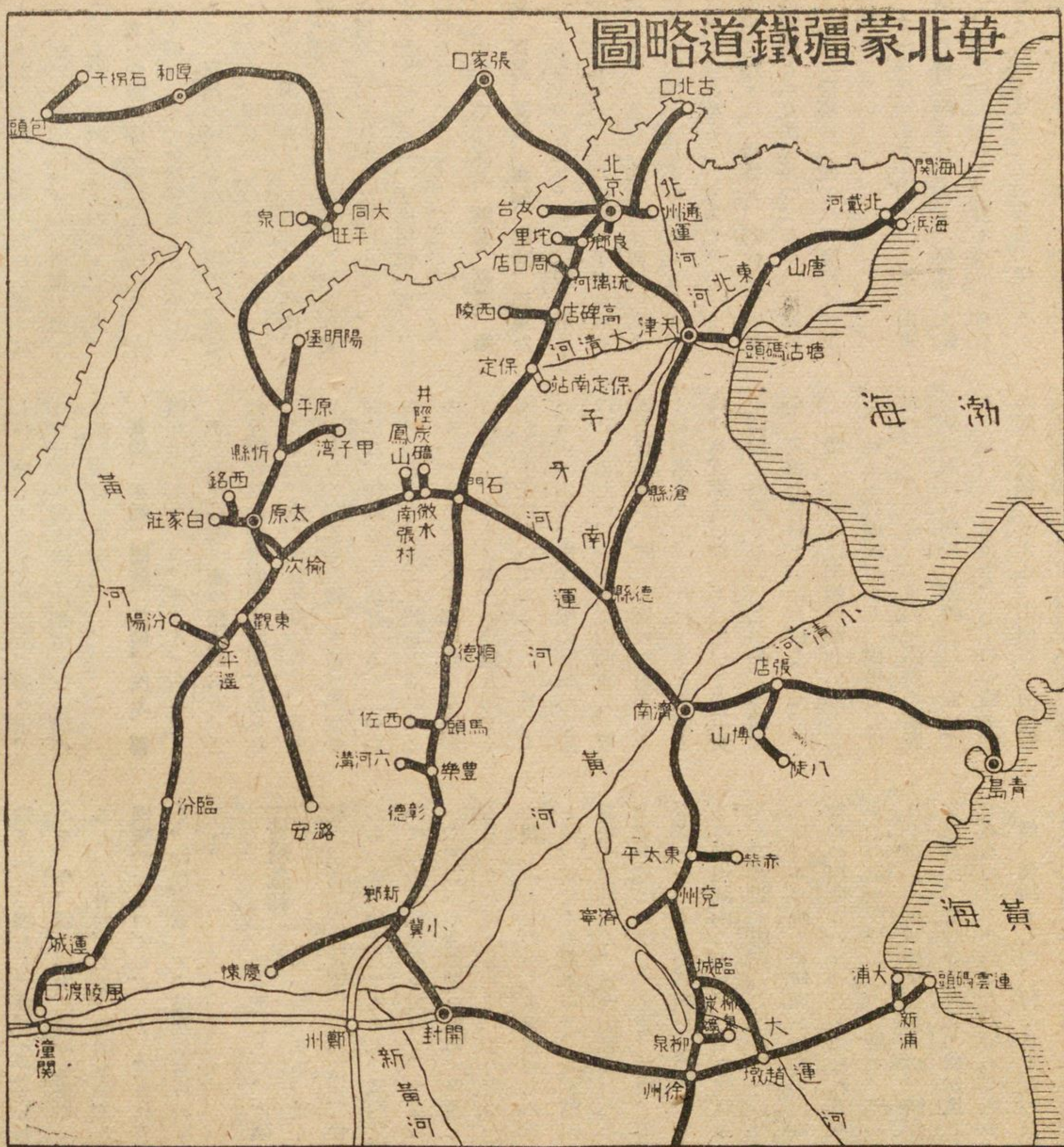
また青州益都に**唐の銅鐘**がある。これは現在城内の玄帝廟の鐘樓に吊られてゐるが、唐の天寶年間の作で、有名な官寺たる開元寺の鐘である。學徒の間には、唐鐘として現存する一二の内の一つとして、非常に貴重とされてゐるものである。形も下部が謂ゆる**波形**ではなく、全く日本式の梵鐘と同じく撞座も中央に付いてゐるといふ珍らしいものである。唐代銅鐘の特長かと思はれてゐたが、今度更に山西省で、唐末ではあるが、同じく唐の銅鐘を見ることが出來たが、これによると矢張り謂ゆる支那式の鐘であつて、この天寶の銅鐘と同樣でない。この點この鐘は全く貴重な資料と云はねばならぬ。

一體、支那には銅鐘は割合に珍らしく、殆んど皆鐵鐘である。銅鐘として眼についたのは、山東の夏津縣の舊縣公署の庭に、明代の銅鐘が二ケ置いてあつたのと、北京市北池子の金剛峯寺の明の大鐘とである。山西省の河津縣城外の覺城寺に、宋代天聖年間の立派な銅鐘があつたが、何時の間にか打毀されて、銅として賣られようとしたのを、今、縣公署内に破片を集めてゐるといふ有樣である。油斷をすると、國寶的なものでもどし／＼壞されて行く。餘程注意して、保護に當らねばならぬ。

青州益都は古都として、古蹟の多い地である。近くの駝山、雲門山には隋代の石窟佛が、昔ながらの姿で殘されてゐるし、城内文廟内には金石保存所を設けて、すばらしい六朝以下の造像碑を集めて保護してゐる。また吾々として、この街に一種の親しみとなつかしみを感ぜしめることは、嘗て千有餘年の昔、我が叡山の慈覺大師圓仁が、五台山參詣のために山東半島に上陸し、文登、登州、萊州濰縣と今のバス道路線を大體通つて、この青州城内に入り、こゝの龍興寺に凡そ二週間も滯在して居られたものである。その時の龍興寺が何處であるか當時の龍興寺の在つたと思はれる處は全くの畠の荒野となつて居て、何らこれを證すべき石碑すらないが、城外の文昌宮に、當時の龍興寺の碑が遺されてゐるのは、せめてもの慰めである。

尙、佛蹟として、特に日本との交渉に於て忘れてはならぬものに東阿縣の**魚山**がある。卽ち日本佛教音樂の發祥の地である。現在京都大原三千院の近くに、魚山と云ふ處を設け、魚山流聲明音樂の正統を傳へてゐるのは、その源は遠く支那のこの東阿縣の魚山から來てゐるのである。

三國魏の文帝の弟、曹植がこの東阿に王たりし時に、屢〻城外の魚山に登つて詩作に耽つたが、遂に此處に於て佛教音樂を作成したと云はれるのである。卽ち東阿王曹植こそは、佛教音樂卽ち梵唄の創生者である。これが後世支那によく流行し、日本に傳はつたものである。かくして魚山流の名は今日迄傳はつてゐるもので、魚山の名は甚だなつかしい處である。

梵唄を作るが如き、詩作に適する魚山とは深山幽谷を思はせるが、さて行つてみると、案に相違して全く何の變哲もない僅か百米足らずの山であり草木一本も生えて居ない岩山で、麓を黃河が洗つて通つて行つた處である。餘り感心した處でもない。然しこゝに曹植の墓も建てられて居るし、廟のやうなものが立つてゐて、そこに隋の曹植碑や、清碑が揃めてある。頂上には眞武廟があつて、今は監視所となつてゐる。（筆者・大谷大學教授）

華北蒙疆鐵道

京山線（北京―山海關）
京古線（東便門―古北口）
京漢線（西便門―小冀）
津浦線（天津北站―蚌埠）
京包線（豐臺―包頭）
膠濟線（青島―濟南）
石德線（石門―德縣）
石太線（石門―太原）
同蒲線（大同―蒲州）
懷慶線（新鄉―懷慶）
隴海線（連雲碼頭―開封）

（お斷り「東城記」休載）

昭和十八年二月十五日印刷納本
昭和十八年三月一日發行

三月號
（毎月一回一日發行）

編輯者 北京・華北交通株式會社資業局 加藤新吉
發行者 東京市麴町區三番地一 長谷川巳之吉
印刷者 （東京）小石川區久堅町一〇八（二〇四）共同印刷株式會社 古川一郎
發行所 東京市麴町區三番町一 第一書房
振替 東京六四二二三番
電話九段（33）一一四一五番 三三四四番
會員登錄番號 一一六五〇八番

一册定價㊉三十錢（郵送料一錢五厘）
一ヶ年分 金三圓六十錢

配給元 東京市神田區淡路町二丁目九番地 日本出版配給株式會社

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可　昭和十八年二月十五日印刷納本　昭和十八年三月一日發行（毎月一回一日發行）第四十六號

北支　定價　三十錢